

## 主な掲載記事一覧(R2.4~R2.7)

## 【新聞】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	ページ	主要記事
R2.5.1	絵画、彫刻、版画…自宅で美術鑑賞 館林美・近代美・大川美・アーツ前橋	朝日ぐんま	3	アーツ前橋全般
R2.5.19	【ミュージアム探検隊】アトで地域交流	上毛新聞	20	アーツ前橋全般
R2.5.22	レモン3.3万個 地球の色表現 アーツ前橋で廣瀬さん個展	上毛新聞	21	廣瀬智央展
R2.5.29	レモン畑の感動再現	読売新聞	21	廣瀬智央展
R2.6.12	廣瀬さんアーツ前橋で大規模個展 レモン3万個の香り漂う空間へ	朝日ぐんま	1	廣瀬智央展
R2.6.14	【アートの地平から】どんな過去を残すのか 住友文彦	毎日新聞	21	廣瀬智央展
R2.6.16	空間に日常潜む美 廣瀬智央さん個展 香りや手触りも表現に	上毛新聞	10	廣瀬智央展
R2.6.16	見えないもの この場で感じて 美術家・廣瀬智央 前橋で大規模個展	朝日新聞 夕刊	3	廣瀬智央展
R2.6.17	3万個のレモン 視覚と嗅覚で 廣瀬さん作品展 多彩な表現90点	東京新聞	24	廣瀬智央展
R2.6.18	【ぱれっと】6月19日(金)~22日(月)何しよ! 廣瀬智央 地球はレモンのように青い	上毛新聞	6	廣瀬智央展
R2.6.24	【評 展覧会】廣瀬智央 地球はレモンのように青い 重ねた時間の先に	毎日新聞 夕刊	4	廣瀬智央展
R2.7.10	アートの過去と現在 アーツ前橋 廣瀬さん対談動画2本	上毛新聞	18	廣瀬智央展

## 【雑誌・冊子】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	ページ	主要記事
R2.4.25	最高の"映え"美術館・博物館50	ぶらぶら美術館・博物館プレミアムアートブック2020-2021	73	アーツ前橋全般
R2.5.12	BOOK&ART&MUSIC	クルーエル	119	廣瀬智央展
R2.5.12	DROW IN ART	ファッジ	156	廣瀬智央展
R2.5.12	5月エンタメの新作レビュー	GINZA	136	廣瀬智央展
R2.5.20	今月おすすめの映画・アート・本・音楽・舞台	Figaro japon	97	廣瀬智央展
R2.6.19	【Event Information】廣瀬智央 地球はレモンのように青い	タウンぐんま TownG	2	廣瀬智央展
R2.6.27	hanako EAT issue67	hanako	125	廣瀬智央展
R2.7.12	美術ジャーナリスト・鈴木芳雄の現代アートナメ読み	HERS	167	廣瀬智央展

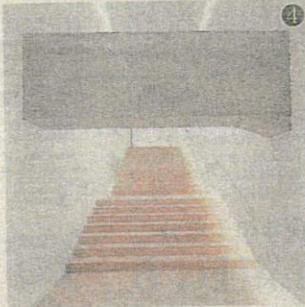
## 【テレビ・ラジオ】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	主要記事
R2.7.6	ニュースJust6	群馬テレビ	糸の記憶展
R2.7.12	日曜美術館 アートシーン	NHKエデュケーショナル	廣瀬 智央展

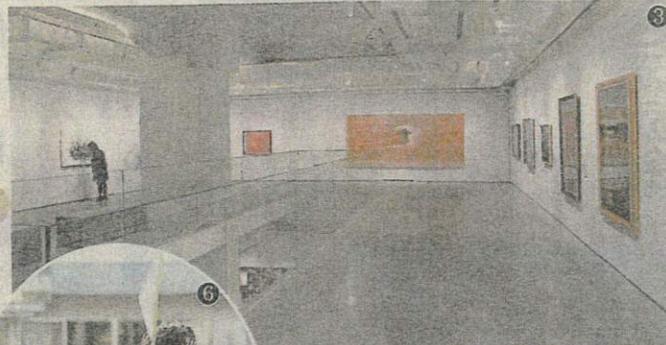
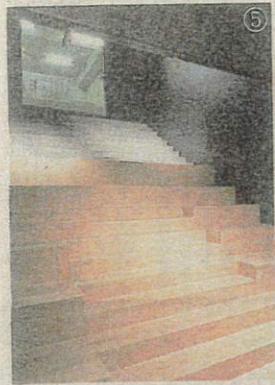
主な掲載記事一覧(R2.4~R2.7)

【ネット】

情報掲載日	記事名	掲載媒体名	主要記事
R2.6.24	展覧会 廣瀬智央 地球はレモンのように青い 重ねた時間の先に 評・高橋咲子	毎日新聞web	廣瀬智央展
R2.6.27	心と体を解きほぐす空間 廣瀬智央「地球はレモンのように青い」	産経ニュース	廣瀬智央展
R2.6.27	心と体を解きほぐす空間 廣瀬智央「地球はレモンのように青い」	auヘッドライン	廣瀬智央展
R2.6.29	【ぐんまアート散歩】五感揺さぶる「匂いの作品化」	産経ニュース	廣瀬智央展



アーツ前橋  
（前橋市千代田町）



### ミュージアム探検隊

## アートで地域交流



⑤、⑥ ©木暮伸也

現代美術を中心に、年7、8回の展覧会を企画するアーツ前橋は2013年10月に開館。活動のコンセプトに①創造的であること②共有すること③対話的であること一を掲げ、アートを通じた地域との交流、芸術文化活動の支援、振興に努めている。

同館の特徴的な作品に、作家に制作を委託し、館内外で見ることができる「コミッションワーク」がある。空模様を描かれた同館の屋上看板（空のプロジェクト）に近い空（13年）（⑧）にはイタリア・ミラノ在住のアーティスト、広瀬智央さんと市内の母子生活支援施設の子どもたちが「交換日記」を通じてやりとりした日本とイタリアの空の写真を使っている。

中村節也や清水水刀根ら、郷土出身作家の作品を多数所蔵。高崎市出身の洋画家、山口薫の「沼のある牧場（1964年）」（②）など、収蔵作品の一部は同館ホームページで見ることができる。

MESSAGETANKENTSU

商業施設を改装した建物自体も注目される。かつてのエスカレーター部分である吹き抜け（④）や、下り階段（⑤）で地下のギャラリーへと導く構造など、百貨店当時の面影が随所に残る。全日本建設技術協会の「全社賞」やグッドデザイン賞（日本デザイン振興会主催）を受賞している。

コミッションワークの一つ、照屋勇賢さんの「舞のアリア（2013年）」（⑥）は、かつて非常階段だった場所に作られた隠れ家のような空間だ。ここでは1日2回、東日本大震災後の群馬交響楽団の

演奏と驚とろの様子を聞くことができる。

MESSAGETANKENTSU

地元との交流も活発だ。16年から前橋市内の福祉、医療、教育団体などと共働した五つのプロジェクトからなる「表現の森」を展開。アーティストの中島佑太さん（同市）は南橋団地の住民を対象にさまざまなワークショップを企画している（⑦は同年実施の様子）。

1階ギャラリーは観覧無料。入り口付近にある図書コーナー（⑧）も充実している。水曜休館。問い合わせは同館（☎027・230・1144）へ。

MESSAGETANKENTSU

身近な美術館、博物館の取り組み、意外な収蔵作品など、普段はなかなか気付かない見どころを紹介する。紙上で美術館、博物館巡りをお楽しみください。

### 歴史知り鑑賞 変化も



文化生活部 飯島礼記者

取材でも、プライベートでもよく訪れるアーツ前橋。建物の歴史を知ったことで、作品に対して違った見方ができそうだと感じた。収蔵作品や活動はホームページやツイッター、フェイスブックなどでも見ることができる。作品展示にとどまらず、文化芸術の発信地でもある同館の今後の取り組みに注目したい。



本日の探検隊員

# レモン畑の感動再現

イタリア・ミラノなどで活躍する芸術家・広瀬智央さんの個展「地球はレモンのように青い」が6月1日から、「アーツ前橋」(前橋市)で始まる。床を約3万個のレモンで埋め尽くした展示は圧倒されるが、そのアートの狙いはどこにあるのだろうか。同館学芸員の五十嵐純さん(36)に、個展の魅力を解説してもらった。

(聞き手・竹田迅岐)



レモンが敷き詰められた会場の様子を説明する五十嵐さん

アーツ前橋、1日から



広瀬智央さん個展

## 「香り」が作品

▲美術館の地下ギャラリー。学校のプールを半分ぐらい(約1300平方メートル)のスペースが真っ黄色のレモンで埋め尽くされている。近づくにつれ、酸っぱいような爽やかな香りに包まれる。1997年に発表された作品「レモンプロジェクト03」だ。

「どうしてこんなにたくさんレモンを並べているのですか？」

「1963年生まれの広瀬さんはイタリアへの留学経験があります。その時、ソレント半島のレモン畑を訪れ、かんきつ系の香りに満ちあふれている空気に驚嘆したそうです。『この感動を多くの人と共感したい』と思ったことが作品の誕生につながりました」

「美術館といえば、絵画や彫刻を思い出しますが。」「当時、芸術作品であまり扱わなかった『香り』に注目した発想が斬新だったのです。会場にはレモンの海へ突き出している桟橋があります。ちょっと歩いてみませんか？」

「全方向がレモンの海に囲

まれて、溺れてしまいそうです。レモンの香りも強く感じます。ただ、レモンは今回のために用意され、個数や置き方は展覧会のたびに違います。これは「作品」と言えるのでしょうか？」

「このようなアートを『インスタレーション』と言います。その場所に合わせて作品を構築していく手法で、この空間全体が一つの『作品』です。日常生活でこれだけの香りと視覚的な迫力を感じる機会はないでしょう。自分が空間の中に入って体験するのは、これまでにない新しい感動を与えてくれます」

## 「人工物」の美

「さらに会場を進むと、もう一つ気になる作品があった。『フォレストボール』と名付けられた



「フォレストボール」について説明する広瀬さん

た巨大な球体だ。表面には無数の植物が飾られ、生命の息吹が感じられる」

「あれ!? よく見ると表面を覆っているのは全部造花だ。『普通の人は『天然のものが良い』と考えます。でも、人工的に作ったものになって『美しい』はあるはず。広瀬さんは世界中を行き来する中で『正解は一つではなく、それぞれに良さや美しさ、存在する意義がある』と感じるようになったそうです」

「それにしても大きな作品ですね。展示室のスペースにぴったり収まっています。」

「実は、これは展示室の広さに合わせて作った新作です。なるべく大きな球体を作れるように工夫をしました。直径は約2・5メートルあります。重くならないよう木材で骨組みを作り、中は空洞にして軽量化しているのですが、それでも1・5トンぐらいになりました」

「人工物だから地球上でありえない生態系ができる。そこがおもしろいです。」

「この球体もレモンの展示も視覚的に圧倒されます。絵画は写真で見ることができませんが、香りは実際にここへ来ないとわからないでしょう。7月26日まで開催しているので、ぜひ美術館に足を運んで体感してくださいね」

# 見えないもの この場で感じて

## 美術家・廣瀬智央 前橋で大規模個展

コロナ禍で世界中に広がったオンライン文化。しかし映像や音声では伝え切れないものがある。イタリア・ミラノ在住の美術家・廣瀬智央(57)が、前橋市のアーツ前橋で開いている大規模な個展は、まさにその点を突いている。

### 香り・時間・関係性：個人の判断で

展示室を進むと、まず鼻が反応する。姿は見えずとも、嗅覚に存在が伝わる。展示室に入ると、そこは一面、レモンの海。約3万個のレモンが床に敷き詰められている。この「レモンプロジェクト03」は、1997年に東京・銀座で1万個で開催されて以来、日本では久々の展示だ。

廣瀬は多摩美術大卒業後の91年、それまでの経験を白紙に戻すつもりでイタリアに留学。南



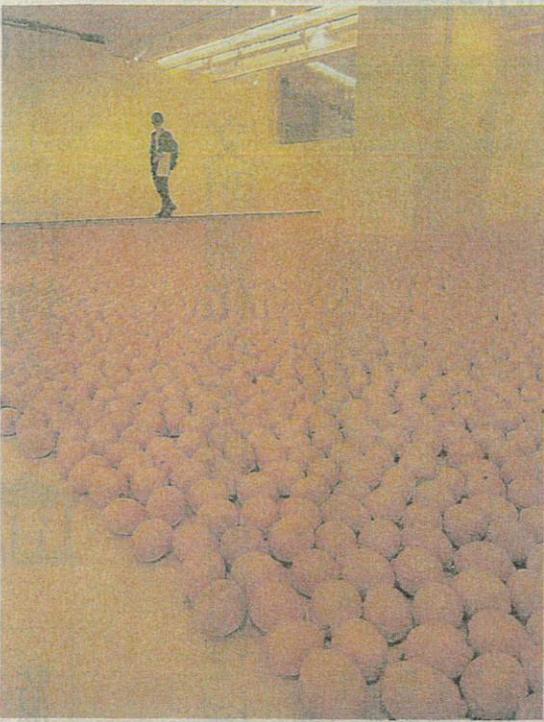
廣瀬智央

部・ソレント半島のレモン畑でかいだ香りが契機になっただけという。「西洋美術は視覚優位でモノとして残すことを重視、嗅覚の位置づけは低い。でも、それを拾い上げたかった」と話す。かりその存在を貴ぶ日本文化の存在と西洋文化との違いも意識した。そして、「僕が畑で感じた喜びや驚きを共有してほしい」とも。

美術館で生ものの展示は珍しいが、会期中、レモンは追加せず、自然の変化に任せるという。さらに終了後はせっけんや紙に再生させることを試みる。「時間」も表現の要素なのだ。一方で、人工的に抽出された

レモンオイルで香りを高めている。自然物と人工物、あるいは生と死の対比もテーマの一つで、今回も造花でできた巨大な新作などが展示されている。「私は家を建てた」シリーズにも、その要素がある。「人間中心ではなく、モノにも家を」と考え、せっけんの家や唐辛子の家が作られ、鼻を近づければ刺激される。

紙幣2枚で作った家の作品群には、また別の意味がある。EU統合前に旅で訪れた欧州各国などの紙幣を使い、折り紙の要領で家を作ると、屋根の部分に「偉人」たちの顔がくるという。「この家の『値段』は明らかですし、家と別の家との間で



「レモンプロジェクト03」(1997年/2020年)の展示



「ワールド・マップ」(1991年)

「私は家を建てた」シリーズから紙幣を使った作品群(1995~98年)



造花でできた「フオレストポール」(2020年、手前)などが並ぶ廣瀬智央展の会場

▽「廣瀬智央 地球はレモンのように青い」展は7月26日まで、前橋市千代田町のアーツ前橋(027・230・1144)。水曜休館。当面的間、東京、神奈川、千葉、埼玉、北海道の各都道府県からの来館は控えてもらっている(詳細は、同館のウェブサイトなどで)。

変化する、(為替レートに基づく)価値の差という見えない関係もあり」と明かす。このほか、廣瀬が家族と9年間で消費したペットボトルのキヤップを積み上げて島状にした立体や、生と死を媒介するとしてえられている「豆」を使った作品、前橋市の母子生活支援施設

の子どもたちと、「地球上でつながっているのに、同じに見えることはない」空の写真を交換し続けるワークショップの過程なども紹介している。香り、時間、さまざまな関係性。地域や社会の中で個人が受け止める、そうした目に見えないものを作品化してきた廣瀬。

「(コロナ禍の)こういう状況でも、感覚は捨てられない。大きな流れに乗ってしまいがちだが、今こそ個人で判断するいい機会ではないか」と話す。

会場には、世界地図を球状に丸めた作品「ワールド・マップ」がある。「日本で見える地図は日本が真ん中だったが、欧州では右端に来ていた。『自国中心』を解消するために丸め、これからの世界はどうなるのか、と考えた」

「コロナ禍が終息したら、どんな『世界地図』が登場するのか、と夢想させる一点だ。」

(編集委員・大西若人)

ファクス03・5541・8611)へ。



◆ 2020年6月16日(火)

◆ 朝日新聞 夕刊

3面

記事名: 見えないもの この場で感じて 美術家・廣瀬智央 前橋で大規模個展

備考: